

IX. インターネットの経済学 (続き)

H. インターネット・ビジネスの急成長

1. 一般の企業・政府機関による Web 利用

a. 情報提供、サービス・商品供給の案内 (一方向)

企業・政府ホームページ (HP)

1990 年代末から急増

2000 年代では必須要件

HP が無いことが異状

個人 HP も急増

b. サービス・商品の供給 (Eコマース) (双方向)

(1) 商品

成功例: Amazon.com (先駆者、1990 年代中葉より)

書物、CD、DVD 等の総合販売

その他多数

(2) 金融

例: オンライン証券取引 (株式、債券、投資信託)

(3) 諸サービス

例: チケット販売 (交通、劇場他)

その他多数

2. ネット企業による新サービス

a. インターネット・ポータル (Web 総合窓口)

Yahoo

検索サービスでスタート、Google に敗れて転進

多数のサービスへ誘導 (例: ネットオークション)

b. インターネット・モール (ショッピングセンター)

楽天 (日)

多数 (数万店) の小規模企業のネット内出店

c. 検索サービスとネット広告

Google (1990 年代末より)

優れた検索エンジンにより他を圧す

新型ネット広告

アドワーズ (Adwords):

検索語ごとにターゲット広告 (消費者の必要に合致)

アドセンス (AdSense):

個人のサイトへの広告仲介 (消費者の必要に合致)

莫大な広告収入を実現

(2006年の株式価値はマイクロソフト社の1/2)

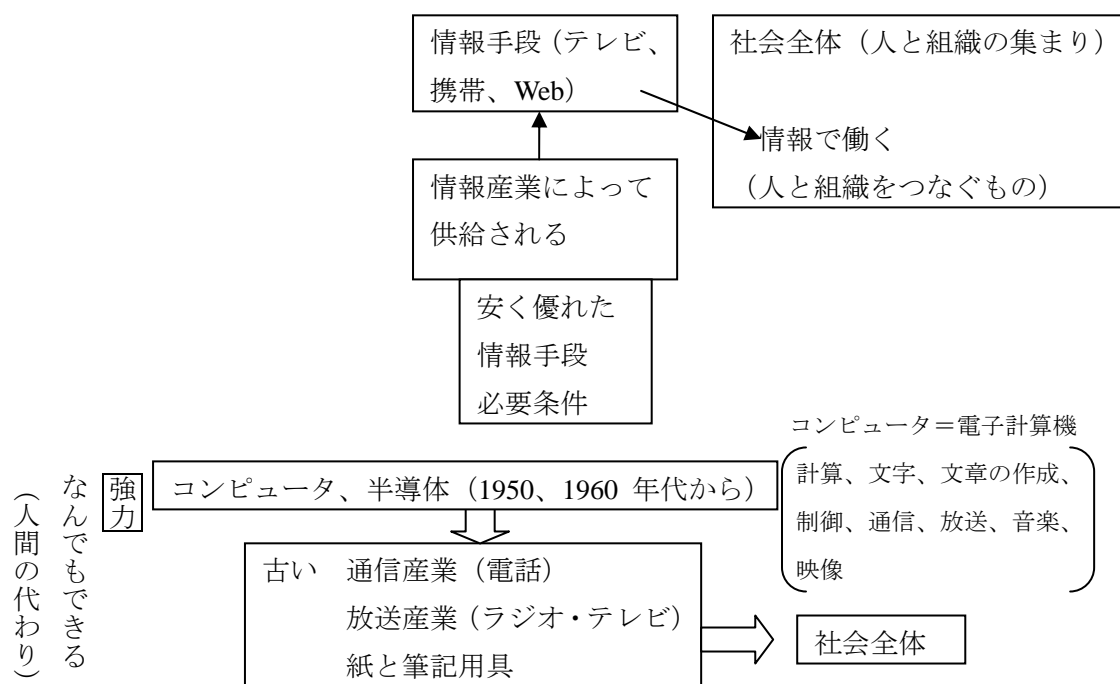
多数の「情報サービス」: ニュース、地図、デスクトップサーチ

I. インターネットの社会的影響---結論

1. 情報通信産業とインターネット

コンピュータ・半導体産業→部品
 通信産業、放送産業、他産業（コンテンツ、印刷、出版、音楽など）
 インターネットによる統合（1990年代から）：拡大・統合中

因果関係の流れ



<情報関係の仕事を変革>

「インターネット」が出現

強力・便利・安価

急速成長

インターネットによる通信・放送統合（融合、convergence）を予測

2. インターネットは 21 世紀のコミュニケーション基盤・社会基盤
- a. インターネットの「爆発 (explosion)」
- (1) 1990 年代中葉からの成長
 - (2) インターネットの 10%普及年数、20%普及年数
＜他メディアを圧倒する成長速度＞
- b. インターネットは数百年に一度の「発明」
- (1) 社会を変革した情報技術
文字と紙と印刷とコピー技術
ラジオとテープレコーダー、テレビ (DVD) と VTR
 - (2) インターネットは「万能」の情報手段
紙・ペン・郵便・電話・テレビ・会議を兼ねる
情報の即時入手、発信 (即時性)
情報の作成、編集、蓄積、検索 (柔軟性、保存性、検索性)
通信・放送性 (双方向・一方向の情報交換)
高速・広帯域情報も扱える (近い将来)
3. 情報手段の変革は社会の変革をもたらす
- a. 近代工業社会を作った紙と印刷技術
- (1) 工業社会は高度の分業・協業に依存
農業社会よりもはるかに濃密な情報支援が必要
 - (2) 初等教育の普及
＜読み・書き・そろばん＞
「もし教科書が無かったら」
「もしすべての印刷機が突然停止したら」
「もし印刷されたすべての文字が突然消滅したら」
＜J.ウィンダムの小説『トリフィド』＞
- b. 現代の大衆社会を作った新聞とテレビ
- (1) 先進国の社会・経済・政治を動かすマスコミの力
＜アメリカ大統領選挙・同時多発テロとテレビ＞
＜阪神大震災時のラジオ・テレビ＞
 - (2) ラジオと新聞は第二次大戦時に諸国民を動員した
 - (3) 戦後の米ソ対立時、ソ連解体時のテレビの役割
＜ベルリンの壁を崩した力＞
 - (4) 社会の耳目・鏡としてのマスコミ
民主主義の緩やかな前進

4. インターネットが作る「新しい社会」

a. 社会の変革は少しずつ進む

- (1) 古い要因と新しい要因の混在
＜戦後日本社会の強固なしくみ＞
- (2) バランスが崩れて「変革」が生ずる
これまで伝わらなかった情報が伝達される
これまで存在しなかった力・影響力が生ずる
これまで無かったグループ・人の輪ができる
＜現在の日本の困難と変革の必要＞

b. 変革の芽ぶき

- (1) 若者世代の変化
＜携帯電話・パーソナル電話の数＞
連帯感・共通基盤の成長
進学・就職だけが目的ではない（組織志向型の減少）
＜硬直的社会の中で無力感も残っている＞
- (2) ベンチャー・ビジネスの胎動
インターネット上の新しいチャンス
＜日米ベンチャービジネスの比較＞
- (3) 政府・大企業組織内でも新世代が成長
＜松下電器で年俸制を選ぶ＞
＜デジタル放送制度＞

5. インターネットは新しい動きを加速する

a. 情報入手・提示の能力が数百倍にふえる

Web 上の情報

世界のどのコーナーからでも情報をとる

世界のどのコーナーからでも取れるように情報を提示できる

＜世界中から情報を見つける－検索エンジンのパワー＞

b. 仲間とたやすく通信する

- (1) 携帯電話
いつでも相手と話す
相手がいなくてもメッセージを残す
- (2) 電子メール
いつでも相手にメッセージを送れる
相手をわずらわせないですむ

<メールの「エチケット」>

c. 未知の人との通信

(1) 仲間をつくる能力が大幅増加

(2) 起業が容易になる

<バーチャルカンパニー>

(3) 政治活動の「大衆化」

分散した力を集めることができる

<特定候補を選挙で落選させる運動>

d. インターネットの「影」の部分

(1) デジタル・デバイド

<取り残される人々>

<米国のユニバーサル・サービス方針>

(2) ウィルスとセキュリティ

<ジャンク・メールの世界>

<ウィルスがデータを壊す>

<ネットワーク犯罪>